

都藝泥布

3月の中頃になっても、春は名のための寒さに身の縮むような日々が続きましたが、会員のみなさまにおかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。

はじめに訃報です。本会名誉会長 綱本 逸雄氏が、2025年1月17日に逝去されました。84歳でした。創立以来、本会の要職を歴任され、運営に労を尽くされたことに敬意と哀悼の意を表します。長い間お世話になり、ありがとうございました。会誌『地名探究』で追悼する予定です。

さて、2025年1月26日（日）第64回地名フォーラムを龍谷大学大宮学舎東翼で開催しましたところ、29名の方（会員23名・非会員6名）にお運びいただきました。どうもありがとうございました。あわせて運営に際して、お世話になりましたみなさまに紙上をお借りしてお礼申し上げます。以下にその内容をまとめましたので、ご覧ください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

発表1 山口 均 氏（本会理事）

「京都の地名を教えてください」

—この漠然とした問いに答えてみる

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

発表タイトルからわかるように、山口氏は日頃から、地名と教育の接点に視座を置き、次代を担う子どもたちの、地名への興味・関心を引き出すための試みを実践されてきた。（山口 均氏）



レジュメ13頁、資料42頁にわたる大部の資料を用意して臨まれた今回の発表で対象にされた地名は、京都をはじめ、日本全国から海外にいたる

京都地名研究会 会報 第87号

令和7年3月22日 発行

題字「つぎねふ」（山城の枕詞）

揮毫 吉田 金彦氏（初代会長）

編集 京都地名研究会事務局

まで広範囲に及ぶ。子どもたちは、氏の「課外授業」で、難読地名の不思議を楽しみ、よく耳にする内外の地名の由来に目を輝かせる。将来の地名学者を育てたいという思いが伝わる「授業」の力であろう。氏は、大学に専門課程がなく、地名が専門的な研究の対象にされていないこと、文化遺産である地名を保護する行政的な統括部署がない現状を問題にされている。地名の命名権が地方議会にあり、恣意的な命名により、歴史地名が消失していることにも言及された。

地名をめぐる基本的な諸問題が整理され、子どもたちが地名を学ぶ楽しそうな様子が想起される発表であった。何より山口氏自身が地名研究を楽しんでおられる様子が、印象的な発表であった。貴重な資料とともに記憶に残したい。

（入江 成治記）

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

発表2 入江 成治（本会理事・事務局長）

遠碧軒の黒川 道祐

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

黒川道祐（?～1691）

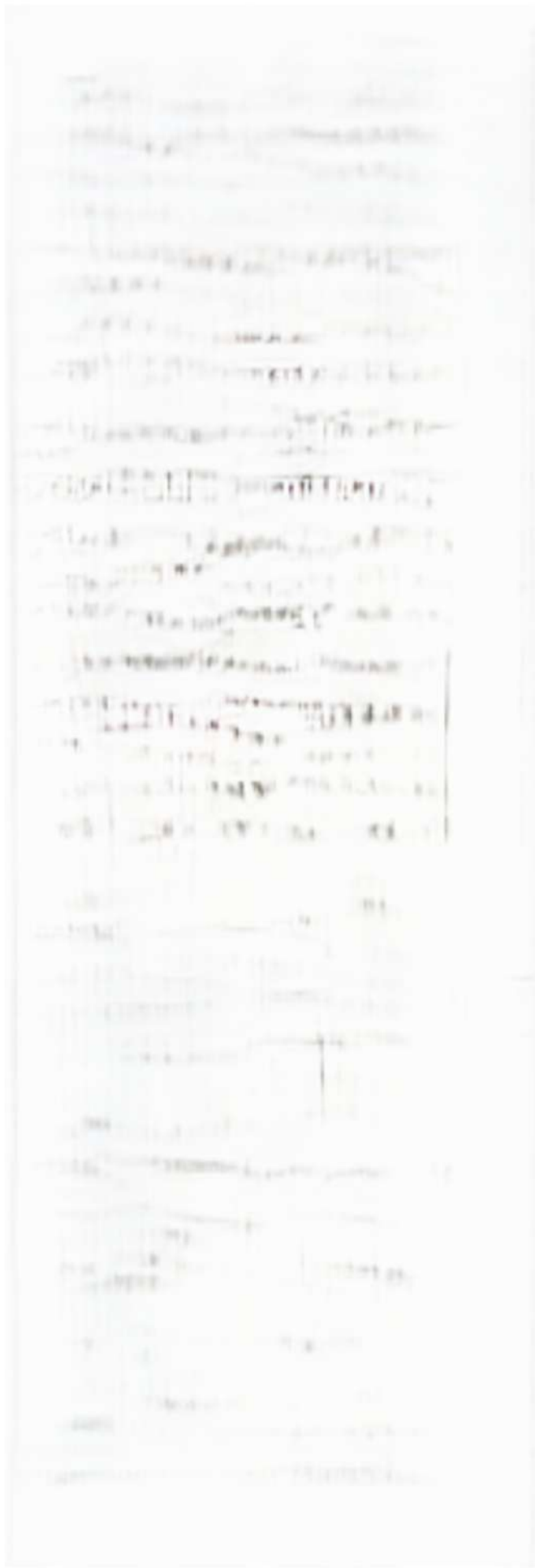
は、京都研究の論文によく引用される京都の地誌『雍州府志』（1686）を独力で編纂したことで知られている。その編纂の動機と信用性が高いとされ



（入江 成治）

る探究法を知りたいと考えたことが今回の私の発表の動機である。

道祐は、父：寿閑（?～1660）の跡を襲い、広島



京都地名研究会への入会案内

千年の都、京都。ここを起点として近畿から国の内外に及び地名を広く細かく蒐集し、比較調査して、地名を学ぶ学会です。地名は歴史の鏡であり、文化を盛る器です。私たちの暮らしのもとにある地名に目を向けて、日本の文化と歴史認識をいっそう深め、地域の知的活性化に役立ちたいと念じます。年齢、職業などの如何を問わず、いつでも、どなたでも、地名文化に関心をもたれる方々のご参加を歓迎し、ご協力もお願いします。入会金不要。

詳細はホームページをご覧ください。

年会費	3000 円
賛助会員・理事	5000 円
家族会員	1000 円

お問い合わせ先

京都地名研究会事務局 入江 成治
Tel
E-mail : kyotochimei@gmail.com
会費納入先 口座名 ゆうちょ銀行
加入者名 : 京都地名研究会
口座記号番号 : 00910-1-160705
本会ホームページアドレス
https://kyotochimei.wixsite.com/kyotochimei